

国語総合の傾向

はじめに

医療の専門家を目指して当大学への入学を希望されている皆さんは、いずれ医療専門職となって社会の様々な問題を抱えながら生活している人々とうまくコミュニケーションをとることが必要となります。そのためには、現代社会における人々のあり方を論じた文章を数多く読んで内容を理解し、それに対する自分の考えを持つことが大切です。筆記試験では、内容の読解までにとどめていますが、日本語を正確に読み、正確に書くことは大学での学習のスタートラインです。

傾向

- 1 マークシート方式による選択式です。
- 2 現代文2題で、その内訳は評論2題または評論・随筆各1題です。
1問目の評論文の問題は科学・歴史・心理・哲学・文化など幅広いジャンルから出題される、やや硬質な文章で、内容把握が中心です。2問目の評論文または随筆文の問題は1問目よりやや柔らかめの文章で、内容把握のほか、さまざまな国語の知識が問われます。いずれの問題も高校の教科書レベルの文章が出題されます。
- 3 漢字の読み書きは必須で、語意、四字熟語・ことわざなどの知識問題も頻出しています。また読解問題は空欄補充、欠文補充、指示内容、内容説明、理由説明などの部分読解問題と全体読解問題（筆者の主張、内容一致など）に分かれます。
- 4 たとえ易しい印象を与える評論文であっても、受験生には馴染みのない評論キーワードが文中では使用されていますから、市販の入試問題集を解いたり、新聞や新書などを読んだりして、論理的、抽象的な文章に慣れておく必要があります。
- 5 本文の分量も少なく、選択肢の長さも短いので、取り組みやすい問題です。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

芸術資本とは、フランスの社会学者ピエール・ブルデューが唱えた概念である文化資本の一つです。文化資本という言葉は、この十数年の間に目につくようになった格差論などではしばしば引き合いに出されていますので、目にした方は多いでしょう。文化資本は本や美術品、骨董品こっとうなどの物質として所有できるものから、知識や教養、趣味や感性や立ち振る舞いなど、個人の中に知的財産として蓄積され、身体化したものまでを含みますが、よくゲンa キュウaされるのは後者の意味合いにおいてです。

ブルデューは一九六〇年代に子どもものの学力差がどのように生まれるかを調査していて、それが個々の親の学歴、職業、年収などと深い関係があることを突き止めました。つまり親の文化資本の⁽¹⁾多寡によって、子どもにとって勉強意欲が喚起されやすい環境かそうでないかが決まっていた。そして⁽²⁾それは階層ごとではほぼ固定化されていた。こうした研究を受けて現在は、経済協力開発機構（OECD）の国際学力調査（PISA）で、家庭の文化度や経済状況と学力の関連性を探るため、「自宅に文学作品や絵画、専門書があるか」といった質問項目をいくつも作り子どもたちに答えさせる、といったことも行われています。

ブルデューは同じ頃、フランスの美術館の観客についても同様の調査を行っています。それによると、観客の四割以上が上級管理職・専門職などのホワイトカラーで、ブルーカラー労働者は観客全体の四パーセントしかいませんでした。もちろん実際の就労人口に対する割合はその逆で、当時はホワイトカラーが五パーセント、ブルーカラーが四割以上を占めていた。この割合は現在大分変化して半々近くになっているでしょうが、美術館の観客に中から上層部が多く下層部は少ないという不均衡自体は変わっていないと思われます。

芸術が身につけるべき教養とされている社会階層に生まれ、日常的にアートに接しているうち、審美眼や趣味もそれなりに洗練されてきます。ブルデューは、モダンアートのように高度に抽象化された芸術を鑑賞するセンスと能力は、生まれつきというよりは後天的な要素（環境や教育や親の影響）によるところが大きく、また階層(3)ごとにはばらつきがあると考え、それを芸術資本と呼びました。

⁽⁴⁾文化・芸術資本は、言わば「父の遺産」です。普通の財産と同じように、家系的に遺産を多く相続している人もいれば、親の代が頑張って資産を蓄えたので子どもが豊かになったという場合もあるでしょう。

フランスの社会学者から文化資本及び芸術資本の概念が出てきたのは、かつて貴族文化が華やかであった国ならではの感じはします。貴族社会が崩壊し市民社会になった後で、^bタイトウした資本家ブルジョワジーは、**A** 的ステイタスを求めてアートを買い漁りあさ、またアーティストの^(注1)パトロンになりました。アートが持つと信じられている、目に見えないその物以上の価値に魅せられ、それらを所有することによって、一般大衆より

はるか上の文化階層として自らを位置づけようとしたのです。フランスでは最近まで、聴く音楽から購読する新聞・雑誌に至るまで、階層によって異なっていると言われていました。

フランスやイギリスのような階級社会の名残がない日本でも、出身階層や出身地域から生じる文化の違いはありました。その後の「一億総中流化社会」では、全体的に生活が豊かになってきた結果、それぞれが「たぶん自分は真ん中へんくらい」と思っていただけで、**B** 的に上下の差がなくなったわけではありませんでした。その中流幻想もとうに消え、経済格差が以前より拡大し階層社会になったと言われる現在、六〇年代にブルデューが調査したのと同じく、親の学歴、収入、職業が子どもの学力と関連しているという調査結果もあります。

もちろん、所得によって生じている経済格差と^(注2) ハイブローウ、ローブローウという文化のステイタスの関係は、必ずしも**C** 的ではありません。そもそもごく一部を除いてハイとローの差異もほとんどなくなり、全体をミドルクラスの文化が^c オオっている現在、優先されるのは個人の趣味です。ブルデューがかつてのフランス社会に見た「正統文化に馴染^{なじ}んでいる者は大衆文化には向かわない」という仮説も、今は成立しません。学歴、所得に関わらず、テレビでサッカー観戦をし、マンガを読み、カラオケで^(注3) AKB48を歌ったりする。また、学歴や収入が高い人ほどアートに関心をもっているとも限りません。高学歴で一流企業に勤めたり自分でビジネスを成功させたりして年収は千五百万円ほどあるけれども、アートよりゲームが好きという人は、全然特殊なタイプではないでしょう。

ただ、美術館に訪れるのは^d イゼンとして中から上の階層が中心であり、現代アートに馴染んでいる人は、どちらかと言えば高学歴の都市生活者が多い。異なる家庭・生活環境の中で蓄えられた芸術資本の差が、「わかる人」と「わからない人」を作り出している面は^{いま} 未だにあると思います。

端的に言えばこんな感じです。家に代々伝わる骨董の皿や掛け軸があつて、親は能楽やオペラに親しんでおり、子どもの頃からよくあちこちの美術館に連れて行かれていて、バイオリンと華道を習い、高校生くらいから現代アートに関心をもつようになった……という、かなりジュン^e タクな芸術資本に恵まれた人がいるとします。そういう人はアートについての本も読んでいるでしょうが、普段の生活の中で自然とアートへの接し方を身につけているので、さまざまな作品を「ただ見て楽しむ」ことができる。

一方で、^(注4) ジャスコしかない田舎町の、高校を出たら就職するのが当たり前という雰囲気の中で育ち、家にはマンガ以外の本がほとんどなく、テレビは四六時中つけっぱなしで、クラシック音楽は退屈なだけだと思っている……という人がいます。その環境でアートとは、学校の美術教科か喫茶店に飾ってある古臭い油絵くらいの認識に留まり^{とど}、周辺で話題に上ることもなく、せいぜいそういう世界がどこかにあるらしいとぼんやり想像されるものでしかありません。この人がもし頑張つて都会の大学に入り、たまたまひょんなことから^(注5) ポロックに触れる機会があつたとしても、⁽⁵⁾ まるで空気のようにアートの教養を身につけてきた⁽⁶⁾ 前者との間には、その受容のあり方においておそらく埋めがたい差があるでしょう。

と言うと、現代アートは^(注6)サブカルチャーに近いものも多く、サブカルは階層に関係なく行き渡っているから、それに近いアートもD的にわかるはず、という意見があるかもしれない。たしかにそういう現象は見られます。しかし私たちがサブカルチャーという言葉でなんとなく了解しているものの多くは、ある時代のある地域にE的な文化が広まったものだということは意識しておく必要があります。その上で、「現代アートはサブカルに近いものも多い」ということについての具体的な情報をキャッチできるアンテナを立てていて、「なんか面白そう」と知的好奇心を刺激され、「これは見ておかなくちや」と判断する人だけが、作品を見に然るべき場所に足を運ぶのです。「現代アートはサブカルに近いものも多い」ようだと知っても、最初からアートに興味があれば「ならサブカルを楽しめばいいじゃない」と思うでしょう。わざわざ見に行こうという気にはなりません。

また見に行ったとしても、サブカル的な意匠やモチーフが使われているアート作品だから直ちに「わかる」とは限らない。キリスト教についての知識なしにダ・ヴィンチの『受胎告知』が理解できないように、その意匠やモチーフがどういう文脈上にあるのか察知したり、アートとの関連性を想像できる感覚、素養が必要でしょう。人は自分の中の「知っていること」を通して作品を受容するからです。知識がなくとも「感じる心」があればいいという意見はよく見ますが、「感じる心」＝芸術を解する感性や趣味も、（ X ）です。近代以降に登場したアートのそもそもの身分は、社会に認められた既存の価値体系である文化にとって異物というものでしたが、その異物性に対する感度や理解力も、他ならぬ文化資本の多寡によって差が生じてくるのです。

情報社会において文化は均質化してきているとは言っても、それらの受容のレベルには幅があり差があります。マンガ一つ読むにもそれなりのリテラシーは必要です。⁽⁷⁾アートはその差がもつとも出やすいジャンルなのです。

（大野左紀子『アート・ヒステリー なんでもかんでもアートな国・ニッポン』河出書房新社による）

（注1） パトロン＝保護者、後援者。

（注2） ハイブrow、ローブrow＝「ハイブrow」は教養の高いこと、またその人。「ローブrow」は教養の低いこと、またその人。

（注3） AKB48＝二〇〇五年に活動を開始した日本の女性アイドルグループ。

（注4） ジャスコ＝イオングループが二〇一一年まで展開していたスーパーマーケットのチェーン。

（注5） ポロック＝一九二〇～一九五六年。アメリカの画家。抽象表現主義の代表的な画家。

（注6） サブカルチャー＝ある社会に支配的に見られる文化に対し、その社会の一部の人々を担い手とする独特の文化。若者文化、都市文化など。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a 〓 1 b 〓 2 c 〓 3 d 〓 4 e 〓 5

a ゲンキユウ

- | | | | | |
|-------------|------------|--------------|-------------|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 道路がフツキユウする。 | 広いサキユウを歩く。 | コウキユウの平和を願う。 | 責任をツイキユウする。 | キユウシに一生を得る。 |

b タイトウ

- | | | | | |
|------------|-----------|-------------|------------|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 晴れのブタイに立つ。 | 出席をジタイする。 | ニンタイ力が足りない。 | 税金をタイノウする。 | 傷口にホウタイを巻く。 |

c オオツている

- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 公金をチャクフクする。 | ゼンブクの信頼を置く。 | 脱線テンブクする。 | キフクに富んだ地形。 | フクシンの部下。 |

d イゼン

- 1 法律にイキヨして対処する。
- 2 敵をホウイする。
- 3 被災者をイモンする。
- 4 イゲンを保つ。
- 5 イギヨウを成し遂げる。

e ジュンタク

- 1 川でセンタクする。
- 2 ショクタク社員として働く。
- 3 決議案をサイタクする。
- 4 磨いてコウタクを出す。
- 5 タクエツした能力を示す。

問(二)

空欄 A

E

いけません。

A 6

B 7

C 8

D 9

E 10

を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

1 相関

2 限定

3 知識

4 文化

5 感覚

6 実質

問(三)

傍線部(1)「多寡」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

1 増加

2 非凡

3 因果

4 必然

5 語意

問(四)

傍線部(2)・(3)の「それ」が指示する内容としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(2) 12

(3) 13

(2) 1 親の文化資本の多寡

2 家庭にある骨董品の数

- 3 個人の趣味や感性
- 4 文化資本の概念
- 5 身体化されない知的財産

(3) 1 芸術が身につけるべき教養とされている社会階層

2 モダンアート

3 高度に抽象化された芸術を鑑賞するセンスと能力

4 後天的な要素（環境や教育や親の影響）

5 階層ことのばらつき

問(五) 傍線部(4)「文化・芸術資本は、言わば『父の遺産』です」と言われるのはなぜですか。その理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ

選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 文化・芸術資本は子どもが生まれ育った家庭環境のなかで蓄積されていくものだから。
- 2 文化・芸術資本は本や美術品、骨董品などとして子どもに相続されていくものだから。
- 3 文化・芸術資本は先天的なセンスや能力として子どもに受け継がれていくものだから。
- 4 文化・芸術資本は親の学歴や職業を子どもが踏襲することで継承されていくものだから。
- 5 文化・芸術資本は親が子どもに教養として学習させることで養われていくものだから。

問(六) 傍線部(5)「まるで空気のように」とはどのようなさまをたえていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番

号をマークしなさい。

15

- 1 アートが表現していることを容易に理解するさま
- 2 アートを必要不可欠なものとして感じるさま
- 3 アートについてぼんやりとしか感じないさま

- 4 アートについて誰よりも深い教養があるさま
- 5 アートが当たり前のように身近に存在するさま

問(七) 傍線部(6)「前者」とはどのような人を指しますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 美術やクラシック音楽を趣味としている人
- 2 ジャスコしかない田舎町で育った人
- 3 学校の美術教科などでアートを学んだ人
- 4 子どものころから芸術資本を蓄積してきた人
- 5 高学歴で一流企業に勤めている人

問(八) 空欄() X ()を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 既存の価値体系である文化
- 2 身体化された形態の文化資本
- 3 誰もが有する普遍的な特性
- 4 サブカル的な意匠やモチーフ
- 5 先天的な才能である芸術資本

問(九) 傍線部(7)「アートはその差がもつとも出やすいジャンルなのです」とありますが、筆者がこのように述べる理由としてふさわしいものを、次の

うちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- 1 文化が均質化しつつある情報社会であっても、アートを理解するためにはそのサブカル的な意匠やモチーフを理解する必要があるから。
- 2 アートは芸術資本を有するハイブローの階層向けに制作されているため、「わかる人」と「わからない人」の二極化を生み出してしまうから。
- 3 サブカルも含めたアートの鑑賞には、後天的なセンスや能力に加えて、作品の意匠やモチーフの背景にある知識の理解も不可欠だから。

- 4 現在、美術館の観客に階層によるばらつきはなくなったとはいえ、アートを表示する美術館があるのは都市部に限られているから。
- 5 アートは社会に認められた既存の価値体系である文化にとって異物であるとはいえ、その理解にはキリスト教の知識が必要であるから。

問(十)

本文の内容と合致しないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- 1 文化資本には本や美術品といった有形のものと、教養や所作といった無形のものがある。
- 2 現代アート作品が「わかる」ためには、それと深く関連する知識、素養も必要である。
- 3 一般的に階層社会では経済格差と芸術資本の多寡との間に相関関係が見られる。
- 4 アートの理解が芸術資本に左右されるという現象は、今では見られなくなった。
- 5 現代アートに関心があるかどうかは、家庭や地域といった環境が大きく影響している。

※一般入試第5回の2を掲載する予定でしたが、著作権者による使用許可が下りなかったため、一般入試第8回2を掲載しています。本文の分量、設問の難易度は変わりません。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

以前、興味深い話を聞きました。鉄筋コンクリート造の団地で生まれ育った小学生がはじめて田舎にある旧来の日本家屋に行ったときの話です。瓦屋根の下、縁側に寝そべり庭や遠くの山並みを見ながら彼はこう言ったそうです。「懐かしいね」と。彼にとってみれば未知の新しい場所なのですが、すでに体験したことのある場所のように感じているかのようです。それはDNAに刷りこまれた風景なのか、あるいは幼少期に見て聞いた日本昔話の絵本の映像がずっと頭にあったからなのかわかりませんが、いずれにせよ、⁽¹⁾琴線に触れる情感溢れた実体的な場所に出会うことで記憶の回路が繋がったのではないのでしょうか。

私は以前ポルトガルに旅行したことがあります。はじめて行く国、はじめて行く場所だったのですが、そこで見た風景や人の営為はとても「懐かしい」と感じたのです。これも自分の中に潜在的にあった記憶の断片のようなものが繋がったからでしょう。かつての自分の身の回りにあったけれども今は失われてしまった風景や人の営為がポルトガルにはまだある、という切ない喪失感もともなっていたように思いますが、しかし^アそれ以上にこの場所に出会えてよかったと思う喜びの感情はるかに大きかったように記憶しています。そんな懐かしさの感情を抱くことができれば、その新しい場所は慣れ親しんだ馴染みのある場所になります。(イ)そこに安心感と寛容さを感じることができます。そんなポルトガルでの体験や団地の小学生の話は複合的で抽象的な懐かしさということで共通しています。場所や空間における「新しさ」と「懐かしさ」は隣り合わせであることや、人の記憶の回路を繋ぎ合わせることができる伝統、慣習が根付いた実体的な空間、場所の尊さと力強さを感じさせます。そしてまだ自分が訪れたことのない世界にも懐かしい場所は存在していて、^イそれを発見できるといふことの喜びと可能性も感じさせてくれます。

一方、何十年かぶりに故郷に帰って食べる料理や、出会う家族親戚や友人、そして久しぶりにあらためて眺める風景に、直接的で具体的な懐かしさを感じる場合も多いでしょう。しかし久しぶりに出会う懐かしいものは以前出会ったものとは、正確に言えば異なっています。物理的な経年変化があるからではありません。^ウそれは自分自身が時間や経験を積み重ね、大きく変化したということなのです。(ロ)、母の味や郷土料理、故郷の風景が当時は好きではなくても、その後の時間の中で経験してきたことを客観的に重ね合わせてゆくと、実はこんなにも美しく、美味しく、尊いものだったのだということに気づいた経験は誰もがあのではないのでしょうか。それは自分の感情や視点が今と昔では大きく変化したことで、久しぶりに出会うものや人の「質」や「価値」さえも自身が変えたということなのだと思います。「平凡」を「非凡」に変えたといってもいいでしょう。そしてその進化した感情、視点によって、伝統や慣習の中にある人、営為、原風景を「誇り」に思うことができるようになっていくのです。懐かしいという感情によって人生の中で新たな価値を見出したのです。^エそれは懐かしさという感情の素晴らしいはたらきです。さらにこの「誇り」とい

う感情はとても重要です。なぜなら人が誇りに感じるものは、自然と大切にしようとするからです。

人は記憶を頼りに生きてゆく動物と言われています。言い方を換えれば懐かしさのような記憶に関わる情緒抜きでは人は生きてゆけないということです。懐かしさは視覚だけでなく触覚、聴覚、^a嗅覚、味覚といった五感をともなった記憶が呼び起こされ、^オそれと向き合うことでいまの自分の肉体、存在、歴史、居場所を肯定することができ、気持ちが出来にひらかれてゆく前向きで大切な感情と言われています。それが証拠に人は自分にとって負の感情を抱くものに出会った時には決して懐かしいとは思いません。懐かしいものや人に出会った時に、人は自然と笑みを浮かべていることが多いですね。懐かしさとは人の「正」の、そして「生」の感情なのです。（ハ）どうも私たちは⁽²⁾懐かしさに対して認識を誤ってしまうことが多いように思います。「懐かし」の昭和^b、「郷愁誘う町」^c「懐かしのおばあちゃんの味」。それらの言葉からは「昔はよかった」という「懐古的な眼差^{まなざ}し」しか感じられず、前向きさや未来への可能性のようなものはあまり伝わってきません。過去は過去のものでして缶詰に閉じ込めたような、博物館のケースの中に入れた展示品のような扱いにされてしまっています。また町づくりや建築においても懐かしさや郷愁のイメージをわざと誘うようなものも見受けられます。それら固定的な「懐古の商品化」や「郷愁のパッケージ化」はかえって人のイマジネーションを閉ざしてしまう危険をはらんでいます。

さて日本人は戦後、「変わる」ことが豊かさとも明るい未来を手に入れることと信じてきました。（二）変わらなければならないことも多々あったと思いますが、「変えるべきこと」と「変えなくてもいいこと」を整理せずに急進的に走り続けてきたように思います。急速な変化は自然風土やかけがえのない人の営為を壊し、人の記憶にとって大切な「原風景」を奪ってゆきました。懐かしいという前向きな感情を抱く間も許されていなかったかのようです。またいま、人が毎日ほとんどの時間見つけているものはスマホやコンピュータのモニターの奥に広がる膨大なデータの世界です。それらは人の情報処理能力をはるかに超えるスピードで膨張し、そして更新されてゆきます。そんな中、私は世の中が更新し続けるもので埋め尽くされてゆけばゆくほど、⁽³⁾建築こそは動かずにじっとしていて、慣れ親しんだ変わらない価値を示すものでなければならぬという思いが強くなってきたのです。言い換えれば、建築さえも急進的に更新し続けるだけの存在になってしまったら、人は何を記憶の拠^より所にしてゆけばいいのかわからなくなってしまうのではないかと思います。建築こそ人の五感の全てが実体として集約されており、人の記憶を宿し、そして呼び起こす能力がきわめて高いものなので、その役割をしつかり果たさなければならぬと考えています。

私の住宅設計は自分の五感をともなった体感の記憶が根幹にあります。縁側で寝そべっていた時の風の快適さ。暑い夏、土蔵の中に入ってひんやりした体感と土の匂い。薄暗いところ、狭いところの安心感。寒い冬、暖炉の火を囲んだときの輻射熱^{かくしつねつ}の暖かさ。木で作られたガラス戸を開ける時の触覚や無垢^{むく}の木の床から足に伝わる感覚。⁽⁴⁾穏やかな山の斜面に気持ちよさそうに佇^{たなず}んでいる集落を見るときの心地よさ。このような体感の記憶な

問(四)

傍線部ア～オの「それ」が指示する内容としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 ア 切ない喪失感
- 2 イ 懐かしい場所
- 3 ウ 物理的な経年変化
- 4 エ 人生の中で新たな価値を見出すこと
- 5 オ 五感をともなった記憶

問(五)

傍線部(2)「懐かしさに対して認識を誤ってしまう」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 懐かしさは「正」や「生」の感情であるのに、人はしばしば負の感情と捉えてしまうということ
- 2 懐かしさは過去のものであるとして、前向きで未来への可能性をもつものとは捉えないということ
- 3 郷愁のイメージを誘う懐かしさは、人のイメージネーションを閉ざしてしまうと考えてしまうということ
- 4 記憶を頼りに生きる人間は、懐かしさをともなう情緒なしでは生きられないと考えてしまうということ
- 5 懐かしさは葬られた過去のものではなく、いつでもよみがえるものと安易に考えてしまうということ

問(六)

傍線部(3)「建築こそは動かずにじっとして、慣れ親しんだ変わらない価値を示すものでなければならない」のはなぜですか。その理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 建築は、DNAに刷りこまれた風景や、幼少期に見て聞いた絵本の映像などをよみがえらせてくれるから。
- 2 建築は、世の中が更新し続けるもので埋め尽くされようとしているなかで、原風景を宿すものであるから。
- 3 建築は、記憶を頼りに生きていく人間にとって、五感のすべてが実体として集約された拠り所であるから。
- 4 建築は、懐かしさや郷愁のイメージを誘うものであり、昔の人との体験を共有できるものでもあるから。
- 5 建築は、スマホやコンピュータの奥に広がる膨大なデータの世界とは相容れない実体的価値を提供できるから。

問(七) 傍線部(4)「穏やかな山の斜面に気持ちよさそうに佇んでいる集落」という部分で使われている表現の技巧としてふさわしいものを、次のうちか

ら一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- | | | | | |
|------|------|------|-------|-------|
| 1 直喩 | 2 隠喩 | 3 対句 | 4 擬人法 | 5 反復法 |
|------|------|------|-------|-------|

問(八) 傍線部(5)「個人の理性を超えた普遍的な()」の空欄()を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つ選び、その番号をマ

ークしなさい。

15

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 1 体感 | 2 記憶 | 3 時間 | 4 建築 | 5 空間 |
|------|------|------|------|------|

問(九) 本文の内容と合致しないものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。(解答の順序は問いません。)

16

17

- 1 はじめて訪れたのに、不思議と懐かしさや郷愁を感じる場所や空間というものがあるものだ。
- 2 何十年かぶりに眺める故郷の風景が以前と違って見えるのは、自分の気のせいにすぎない。
- 3 世の中のものがどんどん更新され続けるなかにあつて、建築はその例外でなければならぬ。
- 4 筆者の住宅設計の基本は、すでに見て感じたことを体感の記憶を頼りに再現することである。
- 5 懐かしさは未来を志向する感情ではなく、過去を肯定し固定しようとする感情である。
- 6 筆者にとって、縁側で寝そべっていた時の風の快適さは体感の記憶の一つとなっている。

設問は以上です。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学と科学技術が飛躍を見せ始めた時代、人類がおろそかにしがちなったのは神仏ばかりではなかった。^(注) 啓蒙主義はキリスト教の神を否定する方向に進んだが、じつは同時に本来その神の敵であった観念、ほかならぬ偶然の観念をも否定しようとしたのだった。神が万能の知者であるのに代わって、科学はみずから全世界の法則を知ろうとしたのだから、両者の共通の敵が偶然であるのは当然だろう。まず認識者である科学は世界を法則の体系として、⁽¹⁾ 因果の必然性の連鎖として説明しようとした。また宗教とは異なり、技術という強力な下僕を持った科学は、ⁱ それだけではなく、現実そのものを積極的に必然的な存在に変えることに成功した。ⁱⁱ それがほかならぬ機械でものを造ることであり、工業生産と ⁱⁱⁱ それを支える社会の実現であった。

偶然性という観点から考えたとき、もっとも不安定な生産形態はいうまでもなく採集と狩猟と漁労によるものであった。どれほど日頃の情報を蓄えていても、木の実や獲物に遭遇するのは偶然に頼るほかはなく、背後の自然状況そのものも裸の偶然の変化にさらされていた。先史民族は予想できない世界の閉塞を直接に感じとって、その内部に身を寄せ合って祈り、踊り、共同の神話を軸にして社会の同一性を見いだすほかはなかった。

農業の成立と都市国家の建設は、これに比べてやや予測可能な社会をつくり、生産計画と製品の貯蔵による安定をもたらしたが、それでも農業は天候に左右され、都市は災害、疫病、蛮族の侵略に脅かされ、それらを予測するには王と司祭の卜占^{ぼくせん}に頼るほかに道はなかった。やがて帝国と諸国家並立が実現し、大宗教が合理的な世界解釈によって社会を支配するようになって、産業基盤が ^a イゼンとして天候の偶然に頼る農業である以上、個人の人生はなお偶然の手に任され、民衆は身辺の小さな神仏に現世救済を祈りつづけた。

これにたいして機械生産においては製品も原材料も規格化され、機械の構造も反復動作を組み合わせる仕方設計されているから、製造過程に偶然性のはいりこむ余地は極度に小さい。正しい設計図が引かれ、適正な材料が選ばれていれば、機械はほぼ生産者の予想通りの商品を実に生みだしてくれる。さらに機械生産は労働の仕組みもいわば機械化して、農業や漁労よりも高度の分業化を招き、生産組織に機械に似た ^A 的なヒエラルキーをもたらした。工業生産は人をこの生活の場所とは分離された組織に組みこみ、⁽²⁾ その内部で個人として独自の同一性を与えるのであった。さらにこの組織は経営という名の評価機関を内蔵していて、おりおり昇給や昇格などを通じて従業員に評価を告知する。従業員は組織内での自己の ^B 性を知り、人生の全体像を予想しやすくなったのである。

こうした予測可能性の高い産業が中心になる社会では、人生の ^C 性にたいする恐怖も一般に小さくなり、人びとの祈りへの ^b ショウドウ、とりわけ ^D 的な祈りへの欲求が減るのは当然だろう。十九世紀から二十世紀にかけて、とくに先進社会の教会や寺院の存在感が薄れたのは明らか

だが、その理由は啓蒙的な合理主義の普及もさることながら、こうした産業構造の変化が大きかった。

工業社会の全盛期において、まだ祈りへの強い欲求に駆られていたのは社会周辺に生きる二種類の人びとであった。その第一は工業生産の組織から閉め出された「弱者」と「敗残者」、すなわち病人や老人や失業者などであって、多くは現世救済を約束する新興の宗教団体に集まった。

第二はそれとは正反対に見かけは恵まれた強者であって、自己の才能と責任を^cかけて組織の外に生きる少数者であった。研究者、発明家、芸術家、スポーツ選手、株式投資家など職種は多様だったが、いずれも成功の予測が困難な仕事に従事し、人生が偶然に左右されることを痛感しがちな人びとであった。当然、彼らは日々に心の内で祈っていたはずだが、残念ながら彼らの多くは学歴が高く、⁽³⁾（ ）の影響を強く受ける境遇にいたために、教会や寺院のような公的な場所で祈ることを避けて身を隠していたのである。

しかし二十一世紀のとは口に出た現代、状況は社会の生産構造の面においてもあらためて大きな変化に直面している。いわゆる知識基盤社会の到来が囁かれ、この社会ではさまざまな創造的人間、基礎科学の研究者、高度な科学技術者、衣装から自動車にわたる美術デザイナーなどの輩出が期待されている。経済界においても経営者の手腕と責任がより大きく問われ、新しい企業の起業家、投機的な株主が激増することも予言されている。彼らに共通する能力は創造的な力けであるが、創造がいかに偶然に左右され、予測不可能であるかは、^(注2) マイケル・ポランニーがそれを「湧きあがり (emergence)」に喩えたことから明白だろう。

いわば E 的な強者が偶然に絶る姿が白日のもとにさらされ、彼らの浮沈興亡が誰の目にも歴然とする社会が現れるわけだが、こういう社会では人びとが公然と祈る慣習があらためて復活するのではないだろうか。社会の指導的人物が無常の波に ^d ヒョウリユウする現実を目撃するにつけて、科学の教える人間の矮小さ、⁽⁴⁾ 「世界閉塞」の感覚が多くの大衆の心にも鮮やかに蘇るのではないだろうか。二十一世紀の文明はこうしてあらゆる面から信仰の回復を用意し、少なくとも⁽⁵⁾ その必要条件を整えているように見えるのである。

もちろん宗教の確立には偉大な^(注3) ウイルトゥスの出現が不可欠であるが、すでに啓蒙主義の ^e センレイを浴び尽くした現代において、そうした超人の出来を信じるのは^(注4) ニーチェのような病的なロマンチストのほかにはあるまい。また既成の大宗教が過去のままのかたちで支配力を回復し、旧来の教義と戒律と儀式に人びとを従わせることも考えにくい。もつとも予想しやすいのは宗教の本質的な原型の実現であって、人びとが閉塞された天空のもとにひとりひとり膝を屈し、それぞれの形式で偶然からの加護を密かに祈ることだろう。

教義も戒律もないこの現代宗教は、当然ながら直接のかたちで道徳を基礎づけることはできない。むしろこの宗教は人びとにひたすら現世救済を祈らせ、その意味では利己主義を助長することになるかもしれない。だが現世救済の願いはどのみち人間の習性であることを思えば、それでもなお人びとが自己の卑小さを強く自覚し、自己を超えた存在のもとにひれ伏す感覚を身につけることは、少なくとも傲慢という根本的な罪の抑制につな

がるだろう。そして傲慢を免れた人間は当然、社会の伝統的な慣習にも服従し、輩出する小さなウィルトゥスにも謙虚に耳を傾けるはずだから、これが間接的に道德感情を高めることは期待できるのである。

（山崎正和『世界文明史の試み 神話と舞踊』中央公論新社による）

（注1）啓蒙主義＝十七世紀～十八世紀にヨーロッパで広まった、理性による知によって世界を把握しようとする思想。

（注2）マイケル・ポランニー＝一八九一～一九七六年。ハンガリー出身のユダヤ系物理化学者・社会学者。

（注3）ウィルトゥス＝ローマ神話の神。超人。

（注4）ニーチェ＝一八四四～一九〇〇年。ドイツの哲学者。

問(一) 傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a 1 b 2 c 3 d 4 e 5

a イゼン

- 1 仕事をイライする。
- 2 心がイシユクする。
- 3 敵をホウイする。
- 4 ヘイイな表現。
- 5 イコツを収集する。

b ショウドウ

- 1 部下をショウウアクする。
- 2 強いショウゲキを受ける。
- 3 当事者とコウショウする。
- 4 人命救助でヒョウショウされる。
- 5 アイショウで呼ぶ。

c
カ|けて

- | | | | | |
|----------|-------------|-----------|--------------|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| トロウに終わる。 | ト バク罪に問われる。 | 心 情をトロする。 | 所 有権をジョウトする。 | ト ザンを趣味にする。 |

d
ヒョウリユウ

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 布をヒョウハクする。 | ド ヒョウに上がる。 | モクヒョウを定める。 | フドウヒョウが多い。 | ヒョウザンの一角。 |

e
センレイ

- | | | | | |
|-------------|-------------|-----------|------------|--------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 商品 をセンデンする。 | 良書 をスイセンする。 | センタク物を干す。 | センボウの的になる。 | あれこれとセンサクする。 |

問(二)

空欄 A

E

を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んでは

いけません。)

A || 6

B || 7

C || 8

D || 9

E || 10

1 社会

2 偶然

3 必然

4 構造

5 集団

6 将来

問(三)

傍線部(1)「因果」と熟語の構成が同じものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 強者
2 起業
3 歴然
4 左右
5 閉塞

問(四) 傍線部ⅰ～ⅲの「それ」の指示内容の組合せとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 i || 世界を因果の必然性として説明すること
ii || 現実を必然的な存在に変えること
iii || 工業生産
- 2 i || 世界を因果の必然性として説明すること
ii || 現実を必然的な存在に変えること
iii || 科学技術
- 3 i || 技術という強力な下僕を持ったこと
ii || 現実を必然的な存在に変えること
iii || 工業生産
- 4 i || 技術という強力な下僕を持ったこと
ii || 積極的に必然的な存在
iii || 工業生産
- 5 i || 技術という強力な下僕を持ったこと
ii || 積極的に必然的な存在
iii || 科学技術

問(五) 傍線部(2)「その内部で個人として独自の同一性を与える」とは具体的にはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから

13

- 1 従業員が職場を生活の場と同一視するように環境を整えること
- 2 従業員が製造過程で行った仕事に応じて給与を支払うこと
- 3 分業体制において従業員に一定の任務や地位を与えること
- 4 従業員を他の従業員に紹介して、同僚として認知させること
- 5 従業員が勤勉に働いているかを監視したり忠告したりすること

問(六) 傍線部(3)「()の影響を強く受ける境遇にいた」の空欄()を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマ-

14

- 1 科学技術
- 2 啓蒙主義
- 3 世界閉塞
- 4 機械生産
- 5 宗教団体

問(七) 傍線部(4)「『世界閉塞』の感覚」とはどのような感覚を言いますか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 世界は偶然に支配されているため、将来の見通しが立たないという感覚
- 2 才能に恵まれた者であれば、組織の外にいても生きられるという感覚
- 3 偶然が支配する世界に、偉大な指導者が現れるに違いないという感覚
- 4 世界が行き詰まっているため、宗教に加護を求めるしかないという感覚
- 5 世界は必然性に支配されており、強者でも偶然を欲しているという感覚

問(八)

傍線部(5)「その必要条件」として筆者が最も重視しているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 科学技術の発展
- 2 高度の分業化
- 3 啓蒙主義の普及
- 4 新たな偶然性の出現
- 5 超人の出来

問(九)

本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 採集・狩猟・漁労を主な生業とする社会から農業社会、さらに工業社会へと産業構造が変化するのに合わせるように、人々の宗教観や道徳観も大きく変化した。

- 2 啓蒙主義はキリスト教の神と偶然性を否定して合理主義を普及させたが、二十一世紀に入って知識基盤社会が到来するや、キリスト教の神が復活してきた。

- 3 知識基盤社会では創造的人間や研究者や技術者などの輩出が期待されているが、彼らは合理主義を否定する現代宗教の信者であるという点で共通している。

- 4 世界を因果の必然性の連鎖として説明する科学は、工業社会、そして知識基盤社会を生み出したが、人々を宗教から遠ざけ、道徳感情を低下させる役割も果たした。

- 5 啓蒙主義と自然科学は偶然性を否定し、工業社会も製造過程から偶然性を極力排除したが、知識基盤社会の到来とともに、偶然性がふたたびその影響力を増してきた。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私の父はコカ・コーラの工場勤務だったので、健康に良くないと人の言うジュースやコーラを私も小さい頃からよく飲んでいたし、^(注1) ジャンクフードやファストフードが発散する安っぽくもぴかぴかした魅力に惹かれてきた。^(注2) (イ)、いまもそれを一方的に悪だとみなす立場にはどこかまどってしまふ。とはいえ同時に、スローフード的なものの実践にはものすごく憧れがあつて、^(注3) 丸元淑生にも^(注4) 有元葉子にもおおいにはまった。

^(注4) アンビバレンツがあるということなのだろう。だからこの⁽¹⁾ 引き裂かれたかんじを共有できる文章にことのほか惹かれるのだと思うし、^(注5) 『食品の裏側』は、この引き裂かれを極端に、ほとんど^(注6) スラップスティックの域に高めていて感動すら覚えた次第なのだ。

スローフードはすばらしい、というのはまさにその通りというほかないし、食を通してある種の消費者運動にも、期待を抱きたいと思っている。すくなくとも、きっちりおいしいものを丁寧にする方々がその労を報われる社会はいい社会だと思う。「スロー」と言ってもそれは表面的なイメージだけの話で、結局は消費社会の商品である点では「ファスト」と同じなのではないかという疑問もよく言われるところだが、しかし、もちろん実質がないわけではないと思う。

その点に関して、哲学者の國分功一郎は「スローフード」というコンセプトの实质は「スロー」というより情報量の豊かさ、つまり「インフォ・リッチ」にあるという指摘をしている。様々な食材に含まれる味わいを咀嚼し、読み解くのに時間がかかるから結果として、食事の時間は「スロー」になるし、作るのにもそれ相応の時間がかかる。それに対して「ファスト・フード」は味や香りの情報が少ない——「インフォ・プア」なので結果的にすべてが「ファスト」になる。これは大変説得的な分析だし、食を通して社会にコミットしていく^甲 方途を明確にしてくれる考察だと思う。

(ロ)、スローフード的なもののある種の正しさを認める一方、それでも「ファスト」や「ジャンク」の魅力をなんとか言葉にできないだろうかという思いは消えないし、また、その^乙 稀有な試みに惹かれてしまうのだった。「ファスト」の——「インフォ・プア」のと言い換えてもよいが、その魅力とはなんだろう。たとえば^(注7) 野中柊がさまざまなジャンクフードのすばらしさを軽快に語っていくエッセイ集『さらめくジャンクフード』⁽²⁾ 次のくだりが手がかりになるかもしれない。

お風呂に入ってパジャマに着替え、すでに歯も磨いてしまった後。さあベッドに入ろうかな、と思いつつ、あ。明日の天気予報を見ておこうかな。(…)そうして、ちょっと小腹が減ったなあ、なんてコマーシャルの間にキッチンを物色し、うーん何もないからこれでも食べるか、とポテチの袋をぱりつと勢いよく開けて、最初一枚を口に入れた瞬間——ああ。これがたまたまなく幸せなのだ。

そう、「これ」である。ぱーっとして何も考えたくない、というときに口に入れて、たいして味わうことなく（単調で強制的な「甘み」「塩気」「うまみ」に身を委ねつつ）自動的にぱりぱりもぐもぐやることの快楽というものが、たしかにある。安逸で孤独な味だ。都市の独身者の味と言うべきだろうか。いや、田舎暮らしで既婚でもいい。夜中に一人寝そべてポテチをかじれば、いろいろなしがらみから解放されて孤独を満喫することができる。ポテチの袋はある種のエアポケットになっていて、そのなかだけは腐敗もせず、いかなるしがらみからも隔離されている。ひとはそこに逃避したくなるということがあるのではないか。^丙ちなみに私はポテチでジンを飲む、という習慣をかつて持っていたが、これはやめられないとまらないおいしさであった。

ポテチⅡポテトチップスについては、食文化研究家の松本紘宇が『おいしいアメリカ見つけた。』でその起源について書いている。

一八五三年の夏のある晩、ニューヨーク州のサラトガスプリングスにある保養所のレストランで、一人の客がウェイターに文句を言っていた。「こんなに分厚いフライド・ポテトは食べられない」と皿を突き返した。それで仕方なくもう少し薄く切って出したところ、この客はそれでも満足しない。

怒ったコック長は、もうこれ以上は薄くできないほどに薄く切り、フォークで突きさすと粉々に砕けてしまうくらいにカリッと揚げて出すとこれが大好評、すぐにレストランのメニューに加わるようになった。

コック長が怒ったのは、薄く切ることで X ——「インフォ・プア」になると思ったからだろう。だが、ほとんどじゃがいもではないような、かぎりなくゼロに近い薄さにもひとは惹かれてしまう。それは一体どういうことなのか、さらに⁽³⁾別の手がかりから探ってみよう。

ジャンクフードやファストフード一般の歴史的な起源はどこにあるのか。一説によれば、それはナポレオンが懸賞金を出して発明させた保存食としてのびん詰である。広大な土地を移動する軍隊が、現地で食料を徴発するのではなく、大量生産して長期間保存可能なびん詰めを輸送・運搬し始めた。（ハ）、それまでも塩蔵や発酵や乾物化など食料保存の技術を人類は蓄積していたが、この時期以降、それは科学技術を^a駆使した大量生産へと劇的に変化を遂げる。次にそれは二〇世紀アメリカで驚異的な発展を遂げ、文字通りグローバルに世界各地の食文化を塗りつぶしてゆくことになる。

^(注8) 東理夫の『アメリカは食べる。——アメリカ食文化の謎をめぐる旅』は、マクドナルドのような超巨大企業を生み出した「アメリカ食文化」

の成り立ちを、自らその広大な大地を自動車旅行しながら丹念に辿り直した労作だ。言うまでもなく東はジャンク擁護派で、死ぬ前に食べる最後の一食は「サケ缶」だとも述べている。「熱々のご飯にも、酒の肴にも———なんだから何かの食料品の広告みたいだけど、何よりも大好物なのである。どうしてだか、理由がわかれば世話はない」。両親ともにカナダ生まれの日系二世だという東の一家は、東京の周りの友だちの家とはすこしずれた食生活を営んでいた。(二) 缶詰が多かったとか、^(注9) グレイヴィーソースを何にでもかけたとか。東はこの旅で、自身のルーツをアメリカ大陸に探るのである。

(ホ)、この旅がおおかたのグルメ紀行と一線を画すのは、探求の対象であるアメリカの食が、かならずしも美味ではない点においてである。そのおいしきさは、まっさきに東自身が認めているところで、フランスやイタリアといったラテン系、あるいは日本や中国といったアジアの国々のように豊かな美味を目指すことがアメリカでは第一義にならなかったこと、つまり「まずさ」の理由が本書では問われることになる。「アメリカ料理が大雑把で荒々しく、繊細さに欠けるのは、きつと食べることの快楽よりも、あの国の成り立ち、近年まで開拓と移動を続けてきた歴史の中で生きていくには、もつと優先される何ものかがあったからに他ならない、と思うしかない」。

「優先される何ものか」とは結局のところ、何だったのか。アメリカ各地の様々な事例を実地で調査し、実際にそれら食べ物を自らの体に馴染ませながら、時間をかけてじよじよに仮説を浮かび上がらせてゆくプロセスにこそ七〇〇頁を超える本書の醍醐味はあるのだが、そこは実際に読んでいただくとして、一挙に結論部分だけを見るならば、二つのポイントを取りだすことができる。一つは、「画一化」それ自体が目的であるということ。この場合の「画一化」はネガティブな意味(たとえば日本式の右へ倣え)ではない。来るべき理想の国としての「アメリカ」を作り出そうとする巨大な社会事業へ参加しているという意識を醸成することが、アメリカにおける食の意義であった。食を媒介として、旧来の地縁的共同体を超えた別の「普遍性」の地平が夢見られているところに、アメリカン・フーズの圧倒的な魅力はあった。

そしてもう一つ。「普遍性」の夢を追求めることは、「故郷喪失」を代償とする。東は旅の終盤で、自分の父が生まれたブリティッシュ・コロンビア州のプリンス・ルパートへ赴く。そこはアラスカ州にほど近い町で、日系人たちはサケ缶工場で働いていた(「サケ缶」の伏線がここで回収される)。そこで東が自分の父のどのような歴史と直面することになるかについては、ぜひ本文に直接あたっていただきたい。ただここでは、それがまさに長い間、封印されてきた過去であり、移民ならではの傷心と喪失を伴うものであったとだけ言っておこう。ともあれこうして東は、自身の父親の背中を想起しながら、ジャンクフーズの魅惑の最深部に辿り着く。「だからして、アメリカの食べ物は Y」。

(三浦哲哉「ファストフーズの叙情」みずす書房による)

(注1) ジャンクフード⇨高カロリー・低栄養価のインスタント食品・スナック菓子・ファストフードなどを^や擲^ゆ擲^ゆしている語。「ジャンク」は、英語でゴミやがらくたのこと。

(注2) 丸元淑生⇨一九三四～二〇〇八年。作家、料理研究家。

(注3) 有元葉子⇨料理研究家。

(注4) アンビバレンツ⇨二律背反。

(注5) 『食品の裏側』⇨安部^{あべつさき}司著。二〇〇五年刊。食品添加物など食品製造の裏側を告発する内容の本。

(注6) スラップスティック⇨どたばた喜劇。

(注7) 野中終⇨一九六四年～)。小説家。

(注8) 東理夫⇨一九四一年～)。作家、エッセイスト。

(注9) グレイヴィーソース⇨調理された肉から出る肉汁を元に作られるソース。

問(一) 傍線部a～dの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a	a	b	b	c	c	d	d			
1	1	2	2	3	3	4	4			
驅使	(1	努力	2	工面	3	尼僧	4	古都	5	舗道
擁護	(1	妖氣	2	暗愚	3	女神	4	病魔	5	老婆
画す	(1	紳士	2	紫雲	3	発芽	4	閑寂	5	威嚇
代償	(1	輩出	2	脂肪	3	崩壊	4	如意	5	鐘楼

問(二) 空欄(イ)～(ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選

んではいけません。) イ⇨ 5 □⇨ 6 ハ⇨ 7 ニ⇨ 8 ホ⇨ 9

1 たとえば 2 無論 3 だが 4 さて 5 あるいは 6 だから

問(三) 傍線部甲「方途」、乙「稀有な」、丙「ちなみに」の意味としてふさわしいものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

甲⇨ 10 乙⇨ 11 丙⇨ 12

甲「方途」

1 道筋 2 目的 3 原因 4 結果 5 意義

乙「稀有な」

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|
| 1 | おおげさな | 2 | めったにない | 3 | とんでもない | 4 | おもしろい | 5 | とてつもない |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|

丙「ちなみに」

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|---------|---|--------|---|---------|
| 1 | じつを言うと | 2 | 言うまでもなく | 3 | ついでに言えば | 4 | 言い訳めくが | 5 | たとえて言うと |
|---|--------|---|---------|---|---------|---|--------|---|---------|

問(四)

傍線部(1)「引き裂かれたかんじ」とありますが、どういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 ジャンクフードは健康によくないというものの、これなしで現在の生活は維持できないということ
- 2 ファストフードの安っぽくもぴかぴかした魅力に惹かれて、それがとても悪だとはみなせないということ
- 3 対極的なジャンクフードとスローフードのどちらにも、魅力を感じたり関心を抱いたりすること
- 4 きつちりおいしいものを丁寧にする労力に関しては、ジャンクもスローも大差がないということ
- 5 スローフードの実践にすぐ憧れる一方で、それが消費社会の商品でもあることに疑問を抱いてしまうということ

問(五)

傍線部(2)「次のくだりが手がかりになるかもしれない」とありますが、この手がかりから筆者は、ジャンクフードの魅力は何だと結論づけていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 口に入れた瞬間たまらなく幸せな気分になること
- 2 「甘み」「塩気」「うまみ」のバランスが絶妙であること
- 3 自動的にぱりぱりもぐもぐできる手軽さ
- 4 しがらみから解放されて孤独を満喫できること
- 5 ジンを飲みながら食べた時の格別のおいしさ

問(六) 空欄 X に入るものとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 時間も労力もよけいにかかり、割にあわなくなってしまう
- 2 じゃがいもがじゃがいもでない別のものになってしまう
- 3 じゃがいも本来のボリューム感を損なってしまう
- 4 じゃがいも本来の味や香りを保つことができる
- 5 じゃがいも本来の食感や風味が減ってしまう

問(七) 傍線部(3)「別の手がかかり」から筆者が導き出した結論を端的に示す語句の組合せとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- 1 「アメリカ食文化」と「まずさ」
- 2 「サケ缶」と「まずさ」
- 3 「地縁的共同体」と「画一化」
- 4 「画一化」と「普遍性」
- 5 「普遍性」と「故郷喪失」

問(八) 空欄 Y に入る言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- 1 熱い
- 2 軽い
- 3 重い
- 4 悲しい
- 5 楽しい

問(九) 本文の内容と合致しないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

- 1 筆者は小さいころからジャンクフードの安っぽくもびかびかした魅力に惹かれ、ジュースやコーラもよく飲んできた。
- 2 ファストフードとスローフードの実質的な違いを情報量の多寡と捉える國分功一郎の分析は、大変説得力がある。
- 3 スローフードは素晴らしいというのはまさにその通りというほかないが、ファストフードにもそれなりの魅力がある。
- 4 都市の独身者にとって夜中に一人寝そべってかじるポテチは、孤独をいやしてくれるありがたい食べ物となっている。

5 ジャンクフードの起源は一説によれば保存食としてのびん詰であるが、いまや大量生産によって世界各地に広まった。

設問は以上です。